

文化都市としての東京

椎名林檎 音楽家

かの権威あるローザンヌバレエコンクールをはじめ、元来欧米が本場だったはずの桜舞台で、近年日本の若い才能が台頭して来ています。舞踊／演奏に於ける日本人の技能の高さへ、世界はすでに冷静な評価を下しています。この事実を中心に私は「豊かな教育を受けた命そのものの価値を、正しく評価出来る都市・東京」を、思い描いています。海外の名だたる舞踊団や楽団で首席演奏者に選ばれる人生以外に、彼らの幼少期からの血の滲む稽古が生きてくる場を、すべからく用意すべきです。渋谷交叉点をタイムズスクエア化しようという声をよく耳にしますが、それならば尚のこと。東京は、世界に誇る人材で溢れ返っているのですから。



TOKYO AS SEEN BY ARTISTS

アーティストから見た東京

98年デビュー。04-12年バンド東京事変の活動も並行。映画、舞台の音楽制作や、様々なアーティストへの詞曲提供、編曲/プロデュースも手がける。日本アカデミー賞 優秀音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、受賞。

100年後にも伝えたい「おもてなし」の心

横井紅炎 華道家

祖母、母ともに草月流華道家の家に生まれる。武蔵野美術大卒。能舞台や映画の演出を手がけ、2007年、世界のフラワーアーティスト27人に選ばれた。都内を中心に花教室を開いている。



日本には素晴らしい四季があり、文化や風習に溶け込むように花や植物をめぐる先人の知恵が受け継がれています。時は幕末。江戸を訪れたイギリス人商人・ロバート・フォーチュンは言いました。「日本人の国民性の著しい特徴は、みな生来の花好きであるということだ」と。常緑樹の松に子孫繁栄を重ね、代々栄えるようにとダイダイを飾る。常緑の松飾りは落ち葉を知っているからこそ、生まれた文化です。路地の隅に植物を置き、めぐる姿は外国人に驚かれたのでしょうか。

江戸から東京に変わった現代でも、床の間や茶室、枯山水と、空間を生かして鉢植えや生け花をすえる風習は続いています。そんな国民性に誇りを持ってほしい。東京はたくさんの人々が訪れるので、私たちは花々や植物で「おもてなし」の心を持ってお迎えできたらいいですね。幕末から受け継がれてきた風習を、100年後にも伝えたい——そう願っています。

